

【資料1】

番号	主旨	項目	実施年月日	場所	関係者	実施内容
1		常盤大学	令和6年4月19日(金)	常盤大学	常盤大学副学長・坂根セツ子氏・今村指導主事・下山田大谷氏(Global Exchange Education)・下山田平田政輝校長(ISA)・巻坂支社長・下山田野上い	常盤大学とのWWL高大連携に係る打ち合わせ
2		Global Exchange Education	令和6年5月14日(火)	常盤大学	常盤大学	Global Exchange Educationに係る打ち合わせ
3		アイエスエイ	令和6年5月17日(金)	オンライン	アイエスエイ	WWL連携校における海外派遣・海外大学進学についての打ち合わせ
4	各協働事業団体との打ち合わせ	国際教育交流ネットワーク機構	令和6年5月9日(木)	オンライン	本庄氏(国際教育交流ネットワーク機構東京支部)・下山田野上い	WWL連携校における海外留学プログラムについての打ち合わせ
5		WTOC	令和6年7月5日(金)	オンライン	室原氏(WTOC)・今本指導主事・下山田	タイバーシティ研修と茨城県WWL高校生フォーラムの委託についての打ち合わせ(1)
6		WTOC	令和6年7月24日(水)	オンライン	室原氏(WTOC)・今本指導主事・下山田	タイバーシティ研修と茨城県WWL高校生フォーラムの委託についての打ち合わせ(2)
7		アイエスエイ	令和6年10月1日(火)	オンライン	齋藤氏・登坂氏(アイエスエイ)・下山田・大川	令和7年度実施の海外大学体験研修についての打ち合わせ
8	協働事業団体対象の協議会	第1回茨城県DLネットワーク運営指導委員会	令和6年7月2日(火)	オンライン	常盤大学・茨城大学・WTOC・ISA・GEE・今本指導主事	令和6年度の茨城県WWLの実施内容についての打ち合わせ
9		第2回茨城県DLネットワーク運営指導委員会	令和7年2月4日(火)	TKP貸会議室が戸駅前	常盤大学・茨城大学・WTOC・ISA・GEE・今本指導主事	令和6年度実施事例の振り返りと令和7年度実施内容の打ち合わせ
10			令和6年5月31日(金)	オンライン	連携校との連絡協議会	令和6年度の茨城県WWLの実施内容についての連絡
11			令和6年11月6日(日)	オンライン	連携校12校・拠点校(生徒・保護者)・国際教育交流ネットワーク機構	令和7年度のカナダ留学についての説明会
12	連携校対象の協議会・説明会		令和6年11月13日(水)	オンライン	連携校12校・拠点校(生徒・保護者)・アイエスエイ	令和7年度のアセア留学についての説明会
13			令和6年11月22日(金)	オンライン	連携校12校(担当教員)・アイエスエイ	令和7年度海外大学体験研修の説明(教諭向け)
14			令和7年1月16日(木)	オンライン	連携校12校(生徒・保護者)・アイエスエイ	令和7年度海外大学体験研修の説明(生徒・保護者向け)
15			令和6年10月13日(日)	オンライン	拠点校(生徒10名・教諭1名)・連携校(生徒14名)	WTOCの委託によるタイバーシティに関する研修(生徒・教員対象)
16	県教委主催の取組	茨城県WWL高校生フォーラム	令和6年12月19日(木)	ひたちなか市文化会館(小ホール)	拠点校(生徒129名・保護者16名)・県教育委員会・茨城大学 その他地域団体7名	WTOCの委託による令和6年度の茨城県WWLの拠点校における成果発表会
17	海外留学の推進	アメリカ・カナダ・オセアニアへの留学	令和6年8月～	アメリカ・カナダ・ニューゼaland	拠点校4年次・勝田高校2年生	そのほか勝田高校1名もアメリカに1年留学
18	海外留学生の受け入れの推進	オランダ・イタリア・オーストラリアからの留学生	令和6年8月～	拠点校	オーストラリア1、オランダ2、イタリア1	
19		防災運動会	令和6年12月8日(日)	本校体育館	拠点校ローレルセミ(生徒・教員)・茨城大学(学生・教員)・地域の外国人	茨城大学と連携して外国人とともに防災を学ぶ運動会を開催
20		全国高校生フォーラム	令和6年12月15日(日)	国立オリンピック記念青少年総合センター	拠点校2ローレルセミ希望生徒(4名)・教員1名	全国のWWL拠点校・連携校・SGHとの交流
21	グローバルゼミ(茨城大学との連携)	タイバーシティ・ブレゼンコンテスト(常盤大学)	令和6年9月16日(月)	オンライン	拠点校生徒1名	茨城大学主催のオンラインブレゼンコンテストで第2位
22		茨城ドリム・バズ・ブランコンテスト	令和6年9月8日(日)～ 令和7年1月23日(木)	茨城県庁	拠点校生徒4名・教諭1名	茨城県主催のビジネス・ブランコンテスト
23		WSC世界大会ソウル・イェール大学	令和6年7月26日(金)～ 8月1日(木)及び 11月13日(水)～20日(水)	ソウル/アメリカ	拠点校生徒3名	茨城県主催のNGGLに参加する生徒がWorld Scholars Cupに参加し、東京大会を勝ち抜いて世界決勝に参加した。
24	カリキュラムマネジメント	「グローバル人材の資質」育成のルーブリック確定	令和7年2月7日(金)	本校洗心館多目的室	拠点校教員30名、福田教授(大学改革支援・学位授与機構)	「グローバル人材の資質」の育成に係るルーブリックの研究/WWL事業の成果分析
25	校内視察	京都市立堀川高校	令和6年11月8日(金)	京都市立堀川高校	拠点校教諭2名	「グローバル人材の育成」の育成・カリキュラムマネジメントについての視察
26	先遣校視察	福島県立ふたば未来高校・中学校	令和7年2月20日(木)	福島県立ふたば未来高校・中学校	拠点校教諭2名(野上・大川)・アイエスエイ	「グローバル人材の資質」の育成・カリキュラムマネジメントについての視察
27	海外視察	海外大学体験研修の下見	令和6年8月27～31日 0(水)、11月6日(水)、11月14日(木)	マレーシア・シンガポール	拠点校教諭2名(野上・大川)・アイエスエイ	令和7年度海外大学体験研修先の下見
28	海外校との交流	オーストラリア	令和6年9月25日(水)、10月3日(木)、11月6日(水)、11月14日(木)	本校4C、4A、4B教室	拠点校4年次3クラス110名・野上	「オンモリ」による実体験交流(Broadford Secondary College / Ravenswood高校とのオンライン交流 計4回)
29		イギリス	令和6年4月～令和7年3月	本校選択教室	拠店校英語部の部員25名	Royal Russel 高校との交流
30		第1回	令和6年5月15日(水)	本校芯授業室	拠点校WWL校内運営委員・校長・教頭	①WWL運営体制 ②運営内容 ③事業計画
31		第2回	令和6年7月10日(水)	本校芯授業室	拠点校WWL校内運営委員・校長	①留学生派遣 ②留学先入り ③海外大学進学 ④海外大学体験研修 ⑤オンラインプログラム ⑥タイバーシティ研修について
32		第3回	令和6年8月6日(火)	本校芯授業室	拠点校WWL校内運営委員・校長	①タイバーシティ研修 ②茨城県WWL高校生フォーラム ③RG6研究報告書の項目
33	校内運営委員会		令和6年9月10日(火)	本校芯授業室	拠点校WWL校内運営委員・校長	①レビュー相察報告 ②先遣校視察の実施検討 ③タイバーシティ研修 R7茨城県WWL高校生フォーラム ④オセアニア・カナダ留学⑤R7グローバル の連携校の留学生に関する状況報告 ⑥オーストラリアオンライン交流
34			令和6年10月22日(火)	本校芯授業室	拠点校WWL校内運営委員・校長	①タイバーシティ研修結果報告 ②茨城県WWL高校生フォーラムの周知・運営準備 ③留学関係の状況報告 ④グローバルVUE ⑤WWL文科科視察
35			令和6年12月7日(火)	本校芯授業室	拠点校WWL校内運営委員・校長	①茨城県WWL高校生フォーラムの海外大学体験研修 ②WWL文科科視察 R6研究報告書作成 ③R6WWLニュースレター作成 ④運営指導委員会編成
36			令和7年1月17日(金)	本校芯授業室	拠点校WWL校内運営委員・校長	①WWL文科科視察 ②運営指導委員会編成 ③R6WWLニュースレター作成 ④R6研究報告書作成 ⑤来年度の行事予定表 ⑥海外大学体験研修の進捗状況
37	その他	全国ネットワーク連絡協議会	令和6年6月28日(金)	筑波大学東京キャンパス	拠点校校長・教諭1名	文科省主催のWWL・SGH高校校との連絡協議会及び交流会

【資料2】掲載された新聞記事など

「核廃絶と平和訴え続ける」

高校生平和大使 田口弘(勝田中教校)



「高校生平和大使」として20月、核廃絶の署名をスイス・ジュネーブの国連欧州本部に届けた。田口弘(勝田中教校)は、4年の田口七望さん(日本原水爆被害者団体協議会)のノーベル平和賞受賞について、「長年の取り組みが評価された」と、今後の核廃絶と平和の大切さを訴え続ける。田口さんは、代目大使23人のうちの1人で、本県の学校から初めて選ばれた。昨年の修学旅行で沖縄を訪れたことが、平和活動に加わるきっかけになった。ひめゆりの塔などを実際に訪問し、戦争体験者の話を聞いて、戦争の恐ろしいことを実感したと振り返る。1年かけて全国から集めた署名を提出し、軍縮会議も傍聴した。各国の話を聞きながら、核廃絶削減に否定的な保守系と廃絶を訴える非保守系の意見が平行線を辿っており、「双方の間に高い壁」があると、問題解決の難しさを痛感させられた。

田口さんは大使に選ばれた6月から1回、都内で同じ思いを持つ高校生らと核廃絶を求める署名活動を続けている。「私たちが一人ひとりが平和の大切さを訴え続けることが重要。時間はかかっても継続して核廃絶の機運を高めて、実現したい」と意気込んだ。(高岡健作)

日本原水爆被害者団体協議会(被団協)のノーベル平和賞受賞について語る田口七望さん＝ひたちなか市足崎

地域外国人と防災運動会

勝田中教校 ゲームで知識学ぶ

地域に住む外国人に災害への備えを教えるため、勝田中教校(下)が、防災知識を楽しく学べるゲームを開いた。参加者は5チームに分かれ、伝言ゲームで各チームの防災知識を競った。ゲームは「防災運動会」として、ひたちなか市立勝田中教校(下)で開かれた。交えながら伝え、最後の市内在住者中心に15の国・地域の外国人と地元の小学生が約30人が防災に関するゲーム形式の伝言ゲームやクイズを楽しんだ。イベントは、同校の4年生や茨城大の学生ら約30人が参加。同様の開催を来年も予定している。また、ゲームは、防災に関するクイズや、新聞紙で簡単に作れる防災グッズ作りも行われた。家族4人で参加したファミリーグループで同市在住のレミシル・レオナルドさん(43)は、「『嵐』(台風)は4年の暮方心さん16は日本語の味が分かって、英語や日本語、身ぶり手ぶりで防災知識を深める伝言ゲームを楽しんだ参加者＝ひたちなか市足崎

外国人と一緒に地域のお困りごとを解決しよう！

※日本語と英語を使用するプログラムです。

10月13日(日) 9:00-12:00

参加対象：茨城県 WWL連携校の希望校
場所：オンライン (ZOOMを使用。学校あるいは自宅からご参加ください)
ゲスト：地域に住む外国人 数名
ダイバーシティ先進国の外国人 (予定)
目標：地域の外国人と会話をし、多文化共生のためにできることを考えよう
締切：9月20日(金)

プログラム内容

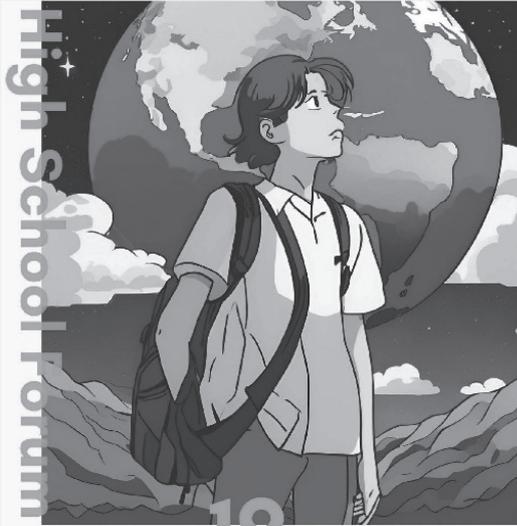
- ①多文化共生って何？
- ②フィールドワークで感じたことの共有
- ③地域に住む外国人のご意見「実は、こんなこと困ってます！」
- ④ダイバーシティ先進国の事例
- ⑤ワークショップ「自分たちができることを考えて発表しよう！」

事前課題/フィールドワーク
「自分が住んでいる街で外国人を見つけて、話しかけてみよう！」など

以下のURLか、右記のQRコードからお申込みください。
8月下旬より詳細をご連絡いたします。
お問合せ <https://x.gd/TJ7OL>
お申し込み 茨城県ダイバーシティ研修事務局 (株式会社WTOC内) ibaraki@wtoc-edu.com

締切 9/20

茨城県WWL高校生フォーラム



High School Forum
令和6年12/19(木) 13時20分～

at ひたちなか市文化会館 小ホール
テーマ 茨城県を未来型ダイバーシティ県にするための教育の推進
プログラム 基調講演「Are you ready for a world-class education?」
(武蔵大学 国際教育学部 東郷賢教授)
プレゼンテーション(勝田中等教育学校4年次生, 3年次生),
パネルディスカッション
「多文化共生社会の実現のために私たちができること」

●主催：茨城県教育委員会
●お問い合わせ：
茨城県WWL高校生フォーラム事務局
(株式会社WTOC内)
ibaraki@wtoc-edu.com

●お申し込み：
以下のURLか、右記QR
コードからお申込みください。
<https://x.gd/iqQbw>
※申込み切：12/18



入場無料

テーマ

多文化共生社会の実現のために
私たちができること

<WWLとは>
文部科学省による「ワールドワイドラーニングコンソーシアム構築支援事業」のこと。高校と国内外の大学、企業等が連携し、テーマを通じた高校生国際会議や大学の先取り履修などの高質な学びを高校生に提供する事業。茨城県では今年度より3年制、勝田中等教育学校が承認拠点校となり、県立中高一貫校13校が「茨城県を未来型ダイバーシティ県にするための教育の推進」をテーマにWWLに取り組みます。

スケジュール

日時：令和6年12月19日(木) 13時20分～
会場：ひたちなか市文化会館 小ホール (茨城県ひたちなか市青葉町 1-1)

- 12:45 開場
 - 13:20 開会行事(学校長・来賓挨拶など)
 - 13:35 第一部 基調講演
武蔵大学 国際教育学部 東郷賢 教授
 - 14:25 休憩
 - 14:35 第二部 ダイバーシティについての
プレゼンテーション
& パネルディスカッション
 - 15:50 閉会
- 第一部：基調講演
「Are you ready for a world-class education?」
武蔵大学 国際教育学部 東郷賢 教授
 - 第二部-1：プレゼンテーション
「地域におけるグローバル視座の醸成に向けた施策とは」
勝田中等教育学校 4年次生 (グローバルゼミII)、
3年次生 (グローバルゼミI)
 - 第二部-2：パネルディスカッション
「多文化共生社会の実現のために私たちができること」
勝田中等教育学校 4年次生 (グローバルゼミII)、
海外留学生、地域に住む外国人 (予定)

講師 武蔵大学 国際教育学部 東郷賢 教授

日本邦出入旅行(現国際協力旅行)の勤務を経て、Yale 大学大学院博士課程修了(Ph.D.)、専門は開発経済学。2015年より、日本で初めてロンドン大学のプログラムを教えるパレルレル・ディグリー・プログラム(PDP)を主催。2022年4月に開設した新学部、国際教育学部の学部長として世界水準の学びを提供する。近著として「現代ニッポンの大問題」あけび書房(2024)。



かつたちゅうとう × いばらきだいがく
勝田中等 × 茨城大学

ちいき 地域の 笑顔を守る!
みんなの

さんか 参加 無料 ¥0

ぼう さい うん どう かい
防災運動会

12月8日 日曜日
13:30-16:00 雨でもやります ☔

場所: かつたちゅうとうきょういくかつこう
勝田中等教育学校
〒312-0003 したらさき
ひたちなか市足崎1458
☎ 029-273-7411

持ち物: 上履き(履く物)

子ども、大人、みんなで!
にほんじん がいこくじん いっしょ ぼうさい まな
日本人と外国人と一緒に、「防災」を学びます。
さいがい お なにに い しか
災害が起きたときに何をすれば良いか、知ることができます。
げーむ くいず すこ た もの
ゲーム、クイズ、少し食べ物もあります。
み 観るだけでもokです。
さんか さんか
ぜひたくさん参加してください!

公式 Instagram
ROUSAI_KATSUTA

参加申し込み
QRコード

Katsuta School × Ibaraki University

Free of charge Protect the smiles of everyone in the community!

Disaster Prevention Sports Day
12.8 Sunday
13:30-16:00 Even if it rains, we will do it. ☔

Place: Katsuta Secondary School
〒312-0003 1458, Terasaki, Hitachinaka
☎ 029-273-7411

Kids, adults, everyone!

Japanese and foreigners learn disaster prevention together. You will learn what to do when a disaster occurs. We have games, quizzes, and a little food. There is space for watching. Please join us!

Official Instagram
ROUSAI_KATSUTA

Register here!
QRコード

【資料3】

令和6年度第2回茨城県 WWL コンソーシアム支援構築事業

運営指導委員会議事録

【日時】2025年2月5日(火)

【場所】TKP 貸会議室水戸駅前(対面)

【参加者】

池田 庸子 茨城大学 副学長、グローバルエンゲージメントセンター長/瀬尾 匡輝 茨城大学 准教授
坂場 由美子 常磐大学 国際交流語学学習センター長/平田 敏之 株式会社アイエスエイ 取締役
登坂 貴 株式会社アイエスエイ 高崎支社 支社長
本庄 伊吹 社団法人国際教育交流ネットワーク機構 代表理事/大谷 敦子 Global Exchange Education 代表/堂原 有美 株式会社 WTOC 代表/下山田 芳子 校長・潮田 巧巳 教頭・野上 泉 教諭・石井 なな 国際交流コーディネーター
今本 理香 指導主事

1. 茨城大学活動報告

高校生向けに茨城大学の先取り授業を提供予定。準備が整い次第、実施開始[令和7年8月頃の周知を予定]

多文化共生に関する授業を実施予定。拠点校と協同して防災運動会を実施、反響があった。

2. 常磐大学活動報告

英語プレゼンテーションコンテストを実施。令和6年9月16日にSDGsをテーマに実施。高校生7名が参加。来年度も開催予定。令和7年度は外国人へ向けた日本語教育や幼稚園や小学校でのボランティア活動を実施予定。

3. アイエスエイ活動報告

【オセアニア留学説明会】

周知を広く行ったが、説明会の参加者がゼロであった。

【海外大学体験研修シンガポール・マレーシア研修オンライン説明会】

1月16日に説明会を開催。20名が参加(勝田中等教育学校の生徒・保護者のみ)令和7年度も事務局と協同し、広く周知をし説明会を継続していく。海外大学体験研修を実施予定。県外高校も含めた共同実施を目指す。

4. 国際教育交流ネットワーク機構活動報告

【アメリカ・カナダ留学説明会】

周知を広く行い、オンライン説明会を実施。本年度は拠点校からは7名の生徒がカナダ・アメリカへ留学した。

来年度も、広く周知を行い説明会も継続して行う。

5. GEE 活動報告

周知を行ったが、留学生を受け入れたい連携校が全て県南地域のため、体制が整い次第の受入開始になる。

今年度は拠点校で3名の留学生を受け入れてもらった。WWL 連携校以外の近隣の高校でも沢山留学生

を受け入れて頂いている。来年度は、多文化共生レクチャーや日本人が無意識にしてしまう差別問題に関する講義を実施したい。

5. 運営指導委員意見交換

(1)文科省視察からの報告について

◆野上教諭⇒視察の際に早稲田大学黒田教授より高校生への留学の進学先が偏っているため、英語圏以外でも留学先の選択肢に入れると良いというアドバイスをいただいたが、この件について情報があれば共有して欲しい。

◆平田指導委員⇒高校生がアジアへの留学をする事例はある。(AFS・YFU)聴講留学や正規留学どちらでも留学は可能。しかし、大学入試の際に留学中の正式な成績の提出が求められる事があるため、聴講留学だと成績が発行してもらえないため、正規留学が推奨される。

(2)防災運動会について

◆大谷指導委員⇒防災運動会の開催地について、駅近の体育館を検討みてはどうか。拠点校は駅から離れているため、バス代や労力がかかるため留学生や地域外国人のアクセスの為に来年度は検討の余地がある。

◆野上教諭⇒いずれかはひたちなか市で大規模なイベント化を目指す。

(3)ポスト WWL の課題

・3年後に資金面での不安が予測されるため来年度から残り2年で、プロジェクト持続可能な仕組み作りを目指す。民間企業や地域教育機関など様々な機関が今後も連携して取り組みを続けて行かなくてはいけない。

海外派遣についても、派遣で終わりではなく、英語の重要性についてや探究などテーマを持たせる指導を行う。

(4)視察の提案

◆池田委員長⇒連携校担当者に拠点校での視察を実施し、プロジェクトの一体感を深める計画をしてはいかかがか。連携校担当者を集め、拠点校の取り組みを視察して頂く。

(5)ミニトビタテジャパン

◆堂原様⇒茨城県内で「ミニトビタテジャパン」を導入し、地域・民間企業・学校が連携して実施する提案。詳細は後日お伝え頂ける。石川、福島、青森県の事例を参考にし、WWL プロジェクトが終了しても持続可能な仕組みを作る。1度拠点校事務局で、青森県の取り組みを視察してみてもどうか。

文部科学省現地視察・意見交換会議事録

日時：令和7年1月27日（月曜日）午後4時30分

場所：勝田中等教育学校会議室

視察者：文部科学省初等中等教育局参事官付改革推進係 係長 吉原 麻梨奈
専門職 古田 昌史
早稲田大学大学院アジア太平洋研究科 教授 黒田 一雄

1 全体に

- ・3年間の準備期間を経て拠点校に申請するなど、非常に周到な準備に敬服する。
- ・地域の課題である多文化共生をむしろメリットとして取組を行っており、WWL事業の趣旨をしっかりと踏まえた取組になっている。
- ・多くの留学者を輩出していること、「防災運動会」など地域の課題に根差した取組に敬意を表す。

2 助言

(1) ダイバーシティー社会や多文化共生を目指すのであれば、現状の留学促進の方向性に改善が必要。(黒田教授)

- ・カナダやアメリカなどの西洋諸国に偏っている現状がある。
- ・カンボジア、ベトナム、マレーシアなどアジア圏内への留学も積極的に推進してはどうか。実際、アジア圏への留学を経験した生徒は満足度が高く、就職においても良い結果を得ている傾向がある。
- ・マレーシアは英語教育の水準が高く、生活コストもアメリカなどに比べて低い。経済的負担を軽減できる選択肢として有力。
- ・アジア圏への留学プログラムを設け、高校生が留学先を自由に選べるような多様な選択肢を提供すべき。

(2) 拠点校と連携校の生徒参加状況の差異

- ・他県のWWLプロジェクトでは、拠点校の生徒が積極的に参加している一方、地方校では参加が少ない傾向が見られる。
- ・これまでのSGH事業のような横展開は難しいフェーズに入っている。むしろ拠点校で、自走型システムを構築し、早期にシステムをルーティン化することが重要、そしてそのシステムを各連携校とシェアをすることが大事。

(3) 防災運動会への取り組み

- ・防災運動会への取り組みは非常に意義深く、WWLの趣旨に合致している。今後も継続して行うべきである。

(4) 自走体制の構築

- ・連携企業からの協賛金の活用や、コンソーシアムのリソースを活用したシステム化

